

令和7年度

パピーナ本天沼保育園

すくわくプログラム

テーマ： 巧緻性

活動 指先の巧緻性

ボタンのはめ外しに挑戦し、つなげていくと長くなることを体験する

環境をデザインする

●準備した物

ボタン付きフェルト

探究活動を実践する

●活動内容

どうしたら長くなるか考える

ボタンのはめ外しに挑戦する

「同じ」「違う」「長い」「短い」を体験する

●子どもたちの様子

ボタンを見たことがあるか尋ねると、「保育園の玩具の冷蔵庫にもある」「パパの仕事の洋服にある」などの声があった。赤と青のフェルトを3本ずつ取った後にみんなで数えると、「足りない」「多い」といった違いに気づき、自分で3本取り直す姿が見られた。ボタンを繋ぐとどうなるか問いかけると、「大きくなる」「長くなる」と、長さの変化に気づいた発言があった。ボタンをつなぐ中で「長い」「短い」といった言葉が自然と出てきて、「長い、短い、長い、短い」とリズムよくボタンをはめる様子が見られた。



●振り返りをふまえた気づき

担任より

普段の遊びの中でボタンの開け閉めを利用しながら遊べるようにしていたが、できない子どもたちもいた。細かくボタンの使い方を教えてもらったことで苦手な子どもたちも止めることが出来ていた。6つ分用意して頂いたことで出来る子どもたちも意欲的にくっつけて楽しむことが出来、いい経験となったように感じる。また、数を数えるところもあり、子どもたちがどこまで把握できているか、指先の使い方なども知ることが出来てよかった。

講師より

数を数えながら「多い」「足りない」などの違いに気づき、自分で調整しようとする姿から、数量への意識が芽生えてきていることを感じた。ボタンを繋ぐ中で、「長い」「短い」といった言葉を発して、実際に比べて確かめる場面もあり、感覚と言葉が結びついていくのを実感した。指先を繰り返し動かしながら、言葉と動きを楽しむ中で、活動への意欲や達成感が深まった。

令和7年度

パピーナ本天沼保育園

すくわくプログラム

テーマ： かず

活動 数唱、集合数

数を正確に数え、数と量の一致を理解する

活動スケジュール

4歳児クラス

日にち	令和7年7月11日
時 間	30 分
参加人数	14 人

環境をデザインする

●準備した物

積み木

探究活動を実践する

●活動内容

お話の中で探してみる

数に合わせて積み木を並べてみる

部屋の中で数を探す

●子どもたちの様子

ホワイトボードに貼られたカードをみて「全部3つずつだね!」「今回は傘が3本ある!男の子全員傘に入れるね」と、数量を確認して話す姿が見られた。「3ってどうすればわかる?」と尋ねると、指で「3」を表す子をきっかけに、全員で3本指を出したり、3回手を叩くなどして「3」を確かめた。「3個あるおやつを書こう」と伝え、クレヨンを使った団子の絵に挑戦し、それぞれがしっかりと手を動かして思い思いの団子を描く様子が見られた。



●振り返りをふまえた気づき

担任より

男の子、女の子、ケーキなど3個という数字に注目しながら「同じ」ということが分かり意欲的だった。またホワイトボードを見ながら同じように縦・横と積み木を並べる中でも、机に並べる児、上に積んでみる児とそれぞれ捉え方が違い面白かった。最後に団子の絵を描いた際には、丸が上手く描けずにいた児も、下から描くことを教えてもらって、スムーズに描くことができた。発想豊かに様々な色を使って描いていた。日常の保育の中でも、「〇回やろうね」「これは何個かな?」などの声掛けをして、数に興味を持てるようにしていきたい。

講師より

話を聞く中で、物の数を確かめたり、数が合っていることに気づいて安心したりする姿から、数量を意識して捉えようとする気持ちの育ちが感じられた。「指で表す」「手を叩く」など、数を具体的な動きで表現することで、数への理解がより確かなものになっていた。団子の絵では、思い思いの表現で描こうとしながらも3という決まりを理解する姿が見られた。今後も日々の関わりの中で、子どもたちの数への興味を大切に育てていきたい。

令和7年度

パピーナ本天沼保育園

すくわくプログラム

テーマ： かず

活動 量

重さ比べ、水の量の不思議を視覚と触覚を通して体験する

環境をデザインする

●準備した物

重さ比べの箱、色水、透明な大きさの異なる入れ物

探究活動を実践する

●活動内容

重さを持って比べる

入れ物によって見た目が違う不思議を体験する

●子どもたちの様子

2つの箱の見た目の特徴に気づく声があがる中で、重さを問いかけると、「持ってみないと分からない!」という声が上がリ、手に取って確かめると、「こっちは重い!」と驚いたり、笑顔を見せる様子が見られた。水の量比べは、同じ量の水をコップから細長い容器と太いのに注ぐと、見た目の違いに気づき、驚きながらも、「太くて大きいから少なく見える」「細いから高いけど、同じ量?」と考える様子が見られた



●振り返りをふまえた気づき

担任より

量と重さの内容は、視覚的に違いを比べられるので分かりやすく、楽しみながら取り組めていたように思う。水に色をつけたり、容器に名前をつけたりすることで親しみを持って参加できていた。また、始めに同じ容器で同じ量であることを確認したうえで、入れる容器の大きさによって量の見え方が違ってくることを示すことで、容器の大きさがポイントであることに気が付きやすいと感じた。

自分の名前を枠の中に収めて書く経験を積むことで、空間認知力の向上にも繋がると思った。

講師より

見た目が同じ箱の重さを考える中で、「持ってみないと分からない」と自分の体を使って確かめようとする姿から、自分の感覚を大事にしようとする意欲を感じた。水の量比べでは、容器の形によって見え方が大きく変わることによって不思議さを抱きつつも、繰り返し観察する中で、自分の考えを言葉で表そうとする姿があった。実際に見て、触れて、考えるという体験を重ねる中で、重さや量への興味をもつきっかけとなった。